

議 長	会議を再開します。 (午後 1 時 0 0 分)
々	これより、本山議員の一般質問を行います。(4 番) 本山議員。
4 番 本山議員	4 番議員、本山修二でございます。通告書に従いまして、質問をいたします。今回の町長の行政報告にありましたように、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画の作成に向け、動きがございました。持続可能なまちづくりの実現を引き寄せる計画の策定であります。また、治水対策事業も大きく進展しております。医療・介護・福祉サービスの強化として、仁寿会加藤病院による地域総合ヘルスケア・ステーションかわもとの新設群の整備も順調に進捗しているとのことでございます。また、部活、スポーツ振興においては、小学校、中学校、高校と目覚ましい活躍をしていただきました。川本町の未来に明るい材料がたくさんございます。しかし、人口減少、高齢化、グローバル化の負の影響が、私たちの生活に不安を与えていることも事実でございます。今回は、地域の皆さんがコミュニティで支えておりました、地域保全、景観維持活動の停滞が生活環境に与える影響について検討し、将来の地域を見据えた課題を共有したいと思います。現在、日本全体で人口減少と高齢化が進行しております。我々の町もその影響を強く受けております。バランスのとれた労働力の構成が崩れ、地域全体に影響が出ています。これに加えて、若年層の減少が地域社会の活力を低下させ、特に小さな集落では、地域全体の持続可能性に対する大きな不安があります。そこで、川本町の自治会単位、集落単位で地域を見つめていきたいと思ひます。集落における草刈り等の地域保全や景観維持活動は、私たちの町の美しさと魅力を維持し、住民の生活環境の向上を図る重要な要素です。しかし、これらの活動は停滞し、その結果、まちの景観や環境に悪影響を及ぼす可能性が高まっています。私たちは、将来の地域の在り方を考え、この課題に取り組む必要があると考えます。以下、質問をしてみたいです。 1、草刈り、景観維持作業などの適切な実施が難しくなっている地域がある。その要因と影響について、どのように認識しておるのか問うものでございます。2、地域保全や景観維持の管理に関する具体的な町の予算と取組について、説明をいただきたいと思ひます。3、建設業の雇用者数の減少が指摘されていますが、災害対策や地域保全など、今後は、今以上の役割を担っていただく必要が生じると考えます。情報の共有や議論する場を設ける時期に来ていると思ひますが、考えをお聞きしたいと思ひます。以上の質問を通じて、人口減少と高齢化に伴う、地域の労働不足が、個々の集落の保全活動、景観維持に与える影響について考察し、このまちが持続可能で魅力的な場所であり続けるために、この課題に真剣に向き合う必要があります。どうぞよろしくお願いをいたします。

議 長	それでは、本山議員の質問、「高齢化と人口減少による労働力不足から考えられる生活環境への影響について問う」に対する答弁をお願いします。 瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	本山議員ご質問の「高齢化と人口減少による労働力不足から考えられる生活環境への影響について問う」についてお答えします。まず、草刈り、景観維持作業などの適切な実施が難しくなっている地域がある。要因とその影響についてですが、20年前は36.2%であった本町の65歳以上の高齢化率は、先月8月末現在で44.6%と、約10%近く増加しており、少子高齢化の影響が顕著に現れております。草刈りや景観維持作業は、一定の体力と技術が必要な作業であります。31自治会のうち8地域において、高齢化率が60%を超えていることから、労働力の減少や作業能力の低下が生じ、作業できる人材が不足していることが、実施が困難となる大きな要因であると推察されます。また、適切な実施がなされないことにより、美観の損失や益害虫（正：病害虫）、野生動物の増加による地域の安全の問題だけでなく、コミュニティそのものの弱体化が懸念され、地域の持続性に大きく影響を与えるものであると認識しております。次に、地域保全や景観維持の管理に関する具体的な町の予算と計画の取り組みについてでございますが、町有地の草刈りについては、業者委託により対応していますが、対象が広範囲であるため、年間1回から3回程度の実施にとどまっている状況です。また、町道、農道、林道については、自治会に作業を委託して実施しておりますが、対象となる22自治会のうち、既に4自治会においては、地域人口の減少と高齢化による人員不足の人員の不足から請け負うことが不可能な状況にあります。最後に、建設業に対して、情報の共有や議論の場を設ける時期にあると思う、についてですが、現在、町内建設業者には、雨期の内水排除に係る排水ポンプ運転や、町道等で自治会にお願いできない範囲の草刈りなどを委託しております。なお、委託する草刈りの範囲は、町有地もしくは町が管理している道路の法面等であり、個人の土地に関しては、町による予算措置や計画は持っておりません。地域で重要な役割を担っていただいている建設業者とは、町内事業者で構成される川本町建設業協会を通じて、必要に応じて適宜意見交換する機会などを設けているところです。こうした取り組みは極めて重要であり、今後も継続してまいりたいと考えております。以上です。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	それでは、まず、今私の質問した背景でございますけども、今まで自治会や各集落では、地域全体で協力しながら先祖から引き継いだ土地を、そして、この地に来た家族の歴史も含めながら、地域の草刈りをはじめ景観保全活動を引受けてこられました。高齢化に加えて、作った作物が鳥獣被害に遭うなど、耕作意欲がなくなるなどの原因もあるかもしれませんが、田畑山林など

4 番 本山議員	を地域で支えることがなかなか出来なくなってきております。しかし今、自分たちがやらなければ確実に荒れ果ててしまう、やれるだけのことはしようと、何とか続けておられるのが現状であると思います。その営みが、今、何とかこの地域の風景、景観を守り続けているのではないかと推測するところでございます。この美しい景観、恵まれた環境は、地域のつながりを育ててきたわけでございますが、時を過ぎ、高齢化と人口の減少の波がやってきたわけでございます。昔から、コミュニティ全体で手入れをし、若い世代も老若男女も協力して地域の景観を維持する、保全するために労力を惜しまず、季節ごとに草刈りをし、景観を整えて地域の誇りとして皆さんが努力されてきたわけでございます。この伝統的なやり方が、これから先ますます維持出来なくなってまいります。この変化自体はですね、私たちの地域に本当に深刻な影響を与えるものと考えております。今までのように、伝統や歴史は守りたい、美しい景観も次の世代に残したいと願っておりますけれども、現状ではこのような、今しゃべったような背景がございまして、地域で解決するのは大変難しいところまできているという、こういうふうに思っております。この問題は、地域の利便性が保たれるか、この地域で暮らしていけるのか、突き詰めればこのような危機感があると思います。先ほど総務課長、さらっとなですね地域の持続性に大きく影響があるというふうなお答えでございましたけれども、町としてはですね、このような地域への認識は今どのような危機感を持っておられるのか、お聞かせいただけますか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総 務財政課長	今議員が仰った地域の高齢化ということに関しましては、総合計画を立てるところでもそういったことに対して、何かしら必要であるというふうなところの話もありますし、こういう中山間地域でありますので、そういったところの問題っていうのは必ずあるというふうな認識はしております。ですが実際に今、縷々言われたようなですね、具体的な事例について認めてはいるもののですね、具体的な方策っていうのは先ほど申しましたように、予算的に持っているとかそういうこともございませんので、そういったことに対して、認識はしているんですけども対策がとれていないというのが実際のところかなと思っております。以上です。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	この人口減少がどのくらい深刻なのか。自治会単位、特に集落単位の世帯数を見てみますと、先ほど31自治会のうち8地域において、8自治会において高齢化率が60%を超えていると言われました。世帯別で言いますと、人口減少が顕著に現れます。この31自治会での世帯数が、50以下の自治体会が今19自治会ぐらい、30以下の自治会が12自治会、そして20以

4 番 本山議員	下の自治会が 8 自治会ぐらいでございます。集落別で見ますとですね、57 集落で 50 世帯以下が 49 集落、20 世帯以下が 31 集落、10 世帯以下でも 10 集落ぐらいございます。このような結果が出ておる中でですね、これは最新ではございませんのでもう少し世帯数は減少しとるかもしれませんが、これではですね自治会単位、集落単位でもですね、作業というのは大変困難でありますし、コミュニティを含めた、集落のそういうつながりというものを、段々希薄になってくるんじゃないかなというふうに考えるところでございます。耕作をやめた田畑の除草作業なども含めて、この生活圏全体でですね、このようなことが起こっていますから、これはますますこれからも拡大していくというふうに思います。それではどんな対策をしていけばいいかというようなことになります。共通の認識としてですね、まず持ちたいのはですね、この私たちのまち、この美しい景観を守りたい、これを前提にしたいと思います。視覚的な魅力は、地域の魅力の低下、そして地域力のアピール力の減少につながってですね、地域観光、経済力に悪影響を及ぼす可能性が大でございます。課題に対処するためには、やはり新しいアプローチや技術の導入が必要であるというふうに考えます。例えば今言われておりますように、自動化された草刈り機やドローンを活用しての高齢者の負担を減らすとか、そういうもので高齢者の労力の制約のある人々の作業をサポートするということも考えられると思います。そして、新しいですね取り組みというのは、技術的な、まず新しい取り組みですよ。そういうことに対して、取り組んでいかなければならないというふうに思いますけども、何か、そういうことを考えられたことはございますか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	具体的に何か考えたかということで、いろいろ考えはめぐるわけですが、ここで具体的にこういうことですのでのはなかなか示すことは出来ないわけですが、先ほどの人口減少対策の中で、長期総合計画を立てる中で、その地域の中で助け合いの仕組みをつくるとか、そういうところは計画はプロジェクトの中でも考えております。そういったところがそういったところの、どうですかね、高齢化に対する、まずはそういうところ認識から始まっていくのかなというふうな感じで捉えているというふうに思っております。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	ではですね、この高齢化人口減少の中でですね、こういう変化の中で失われつつあるものというのは何かと、いちばん最初に思いつくことは何だと思われますか。
議 長	瀬上総務財政課長。

番外瀬上総務財政課長	何か、すぐ浮かぶのは人の数ではあるわけですけども、いわゆる住民の活力とかそういったところなのかなという気持ちを持っております。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	はい、今、総務課長が言われましたように、地域のコミュニティが、まず薄くなってくる、活力がなくなってくるということだろうと思います。地域維持のためには、少なからずともボランティア活動や地域の組織化というものが、まずは課題として上がってくるわけでございますし、それがまず不可欠だろうと思います。やはり最後は人の力、人の結束ということが1番のところだと思いますけども、そのためにはですね、強化策が必要であるというふうに思うわけでございます。後でこのことはまた後でお話しします。次にですね、地域に住むためには、地域の人たちのアイデンティティーを守ることが必要、大変に必要なというふうに考えております。地域で住んでいる、そして地域に住んでこの存在価値というものをね、きちっと皆さんに認識していただきたい。地域が自分が2、3軒しかなくなったような地域の人でも、やっぱりそこに住むその気持ちと、今までのいろいろな思いもあってそこに住んでおられるわけですから、その人たちのやっぱり気持ちというのは大事にしないではいけないというふうに思うわけでございます。そこにはやっぱり行政としては、ある程度サポートというのは必要になってくるんじゃないかなというふうに思うわけでございます。そうしたところでですね、誰もが楽しめるような場所にしたい、草刈りなどもですね、様々なことを考えながら、付加価値を求めてやっていくということも必要ですし、最近ではですね新聞等で見ますように、ヤギとかですね、牛とかをうまく使って除草するとか言われておりますし、化学薬品に頼るんじゃなくて、代替品を使った除草作業というようなことも今考えられているということでございますので、ぜひともですね、そういうことも頭の中に入れて考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	議員仰るとおりに、持続可能なまちとしてですね、そういったところにも当然のことから考えを及ぼす必要はあると思いますので、今後、そういうところの研究も進めてまいりたいと思います。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	はい。現実的でないようなことも言いましたけども、まずは、やっぱり個人、そして団体の協力が必要である。そして新しいアイディアや支援も必要である。強いて言えば地域が一丸となって、今、実行していかななくてはなら

ない、喫緊の課題だというふうに思います。全国ではですね、各地でこのように同じ課題に取り組んでおられるところが今、多くございます。その中にはですね、ちょっと私も調べとった中にですね、面白いところを見つけました。長野県の話なんですけども、市民協働サポートセンター「まんまる」という組織がございまして。長野市が平成15年に設置した公設民営の中間支援組織でございまして。幅広い人たちの出会いの場や学ぶ場、伝える場を提供しているということでございまして、未来創造拠点を目指しているというところがございます。「まんまる」という組織の思いなんですけども、理念といいますか、地域には様々な人が暮らしておられる。一人ひとりが出番と役割を持って様々な活動に参加、参画できる機会があれば、市はもっとと良くなると思う、との趣旨がある。多様な団体・人が出会い語り合い、認め合い、磨き合う、そんな場になれば、そしてそこから新しい活動が生まれ、関わる人がワクワクするようなそんな場面を目指したいというお気持ちがあるそうです。どのようなことをしているかといいますと、様々な交流や講座の開催、イベントの企画、市内の市民団体の情報や全国規模での研修会、そして活動に欠かせないのはですね、助成金などの情報なども一緒に合わせてやっておられるということでございます。また市民活動家、地縁組織、企業、行政、学校、専門家などが出会い協働が育つための、ここも重要だと思うんですけど、伴走型支援ということをやっておられます。この中で、興味深いワークショップをされておりました。内容はですね、「たかが草刈り、されど草刈り。草刈りなめんな奥が深いぞ」という題でですね、意見交換をされておりました。現状を改めて確認してそれぞれの地域で、その取り組みを共有し、新たな解決策を探るということでございました。内容ですけども、アイスブレイクを兼ねてワークショップ、そもそもなぜ草刈りをするのか、から始まりました。出された意見としてはですね、私たちが思う安全のためとか、田んぼの作物を有害鳥獣・害虫から守る、景観が悪くなる、防災のため、そして、そこに住んでいるから。必要があってやっているという認識は、圧倒的ですね、冒頭から盛り上がったそうでございます。そして地域で必要だから草刈りをしていることがわかって、必要なのに出来ていない現状は何なのかということ、今度は突き詰めていかれました。今はやっぱり、先ほど言いましたように高齢化、人口減少でございます。今後出来なくなるのではないかという不安感、負担感はどこから来ているのか。そして、そうすると担い手を固定的に考えていたのではないか。女性でもできるんじゃないか、若い人がどっかから手伝いに来てくれるんじゃないか、そういう考え方も湧いて出ました。地域によってはですね、助け合うコミュニティが不足してきている。そして費用がかかるというような、そういうことも出たそうでございます。前向きな意見としては、昔は草や出た切れ端、木の切れ端とかは有用な資源であった、しかし今はそれが資源でなくなった、しかしもう一度それを資源として見直したらどうだろうかというようなアイデアもあったそうでございます。そしてこのような話をずっと進められてきまして、最後にはで

4 番 本山議員	すね、組合を設立されております。ワークライフ組合というものでございまして、まず事務局がございまして。それに依頼者、これはお願い会員ということで。協力者、それがお助け会員。そして支援者、応援会員、この4つの皆さん方で成り立っておって、組織としてはすごい手応えを感じておられるということでございます。この地域の実情はですね、ほとんど川本町と変わりません。そうした中で、やはりこの新しいアイデアを作りをする環境づくりというのは本当に必要だと思います。川本でも三原のまちづくりセンターでですね、そういうこともやっておられるかもしれませんが、まだ助成とか助成金とか、そこまで伴走型のものがやっておられるかというのは、まだそこまでいってないんじゃないかなというような気もしますけども、地域の特定の状況ニーズに合わせてですね、適切なアプローチを検討していただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	今の大変どう言うんですかね、先進地の話を聞かせていただきまして、大変勉強になったなと思っております。先ほど申しましたように、そういった状況は把握しているものの、具体的に何をするかについてまで、まだこう深くは踏み込んでいないという事実がございまして。先ほど仰っていただいたところですね、どこにもある事例だとは思いますが、そういったところ研究をしながらですね、うちの町にとって手後れにならないタイミングで対処すべきだというふうに改めて認識をいたしました。ありがとうございました。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	確かにですね、手後れにですねならないように、もう本当に困っておられる集落の人たちは、本当にもう切羽詰まっておられるところもございまして、そのところをよろしくお願ひしたいというふうに思います。次にですね、具体的な町の予算と取り組みということでお聞きいたしました。町の予算でしますと、草刈り等、町有施設の草刈り業務委託とかですね、建設業者さんに出している除草作業等々やりますと結構な金額がありますね。3, 400万ぐらいになるんですかね。ざらっとですけど。そういうそのぐらいの資金があつてこれからますます大変なことになると、まだまだこれが資金が膨れ上がっていくんじゃないかというような気がします。ですから先ほど言いましたようにですね、やはりそういう早い手を打って、地域の協働というものを作り上げていかん（＝いかないと）と、費用ばっかりかかってしょうがないという状態にもあろうかと思っておりますので、先ほどのような地域のコミュニティの活動が活発になるようなですね、施策をしていただきたいと思います。ちょっとこの予算の中でですね、今まで令和3年ぐらいまでは草刈り隊というのがございました。それが無くなってですね、令和5年には土木総務費で

4 番 本山議員	公共土木施設パトロール隊というのがつくられておりますけ（れ）ども、このパトロール隊は何をされるものなんですかね。
議 長	伊藤地域整備課長。
番外伊藤地域整備課長	道路パトロール隊でございますけども、これは道路法ですね、基本、巡視の点検等が求められております。それによってですね、毎日、町道でありますとか農道林道、それからまた川ですね河川ですね、こういったところのパトロールと巡視、それでまた軽微な作業を行っていただいたというところでございます。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	これは、令和 5 年度に新しく新設されたということですけども、今まではどのようにされとったんですか。
議 長	伊藤地域整備課長。
番外伊藤地域整備課長	道路パトロール隊が発足したのは令和 4 年度からでございます。それまでは、いわゆる職員の直営ですね、行っていたというような状況です。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	私がこの予算を見ました時にですね、草刈隊の予算と今このパトロール隊の予算がですね、ほぼ似通ったような予算がついておるわけでございます。この草刈り隊というのは、この川本町にとっては大変に必要なものだというふうな認識をしております。そして先ほど言いましたように地域でですね、そういう団体をつくっていくにはですね、やっぱりそういう核になる方がおられんと、なかなか進んでいけないというような気もいたします。専門家、専門的なこの除草ができるような人が、まず先頭に立って、様々指導していただくというようなことが必要だと思うんですけども、ちょっとここの草刈り隊についてはどのようにお考えでしょうか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	草刈り隊でございますが、昨年、以前については会計年度の職員を雇用して、その方々で草刈りを町有地でございますけども、その草刈りをお願いしているところでございます。実際に作業していただいた時に今、皆さんが皆さんそういう不慣れの方もいらっしゃるって実際に事故が数件あったという事実もございまして、そういったことも踏まえまして、今年度から草刈り

番外瀬上総務財政課長	については専門業者ということで、森林組合のほうにお願いをしているところでございます。実際、森林組合にお願いをしていて、その内容は草を刈るだけではなくて、実際に回収ですとか高いところの木を伐採されるとか、かなりこれまでは出来なかったところの作業もお願いしているというところで、そういったところはよりうまくなっているというふうな認識をしております。以上です。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	先ほど自治会の中で、そういう作業が出来なくなった自治会が出てきているというふうに言われましたね。これから、そういうところがますます出ると、道路維持作業にしても何にしても、費用ばかりかさんでいくような気がしますけど、その点はどのように、財政と比べてどのようにお考えですか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	先ほどの件でございますが、町道、林道、農道につきましては、各自治会にお願いをして、草刈りをしていただいているという事実がございます。そのことを先ほどの答弁も申しましたように、22自治会のうちの8つの自治会では、失礼しました。8つではなかったですね、4つぐらいの自治会についてはもう請け負えないということで、直接町のほうでやっているという状況でございます。実際に道路の維持管理っていうのはそこを利用される方がおられるので、これをしないというわけにはいかないというふうに思っております。いうことで今までは自治会の皆さん、住民の皆さんに甘えていたわけではないですけどご協力をいただいて、やっていただいていたところが出来なくなったということで本来、町のほうでやるところになろうと思いますので、そこに予算をかけていくというようなことであります。そのことについて財政的にいかがかという話でございます。そのことが増えれば当然、財政、財政負担というのは大きくなるのは事実であります、そのことを、じゃあそこを削るのかという話については、また別の問題かと思っておりますので、これは全体の執行を見ながらですね、予算配分をしていくものと思っておりますので、そこを利用される方にとっては今必要な草刈りであるという認識をしております。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	それほど厳しい状態であるということだろうと思います。先ほど専門業者との協力ということで、今後はこういう委託に出すところもかなりウエイトを占めてくるということだろうと思います。そうした中でですね、建設業の雇用者数の減少などですね実態をですね、今、町としてはどのようにお考え

4 番 本山議員	ですか。これからの除雪作業とか災害対応とか、公共事業ももちろんあるのかと思いますけども、その辺の危機感といいますか、何かございますか。
議 長	伊藤地域整備課長。
番外伊藤地 域整備課長	昨今、この10年来でもですね、町内の建設業者さんが数件事業をやめられたというところもございます。今議員仰ったようにいちばんウエイトが高いのが、除雪作業というふうに認識をしております。町内の建設業者さんは、町道もですけども、県道も川本町内の受けられておりますので、非常に広範囲にわたってやっていただいとるというような状況ではあります。これを今後どうしていくかというところでですね、具体的にこれだということはまだないんですけども、建設業においてもですね、働き方改革というところで、町もですね、週休二日制のところでもですね取り組んでいっておりますので、このことは町問わず島根県においても一緒だと思いますので、特に連携してですね、何とか建設業者さんの雇用の維持も含めてですね、行っていきたいというふうに考えております。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	先を考えればですね、非常に危機感を覚えるところではございますが、このような状況下ですので、先ほど言われましたように適宜意見交換等されてですね、今後に向けて継続的に話し合いをしていただきたいというふうに思います。この建設業者の皆さん方も大切なんですけども、まずは町民住民の皆様方と様々な対話をするということも必要になってくると思います。本当に必要な方という方は、なかなか声を出しにくいところがあるかと思います。この不便にはですね、このもどかしさを感じておられるのはですね、本当にそういうところの住民さんだと思います。しっかりとですね住民の皆さんと情報共有してですね、しっかりと議論をしていかなければ、本当にちょっと大変なことになるかなという気持ちもするところがございますので、その辺の情報提供とかですね話し合いとかですね、十分やっていただきたいというふうに思います。いかがでしょうか、その辺の。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総 務財政課長	今ご指摘のことにつきましては、非常に大切な視点であると認識をしております。これまでも自治会を通してですとか、自治会長さんと話をすることもありましたが、地域の中に出ていってこういう意見も伺うということも、いろいろやるべきだと思っております。情報の把握に努めましてですね、先ほど申しましたように手後れにならないような対応というのを心がけてまいりたいと思います。

議 長	本山議員。
4 番 本山議員	はい、この中でですね、今は人が住んでいない、そして人が管理をしていない、そういうところがたくさんあるかと思います。権利の問題ですね、所有権とか使用権とか、そういうものが不便を生むというような認識はございますか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	具体的に何がというわけでありませんが、地域の中でですね耕作放棄地であったりですとか、例えば家屋の老朽化というところは事実目にするのがございますので、そういったところっていうのはその周りに住む方からするとですね、大きな問題になってくるのかなという認識を持っております。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	人がいなくなっても、そこに山林、田畑には所有権がありますし、河川とかですね沼とか海とかには漁業権とか水利権とか、そういうものがあります。また、狩猟につきましても、猟友会の参入規制というようなものもあるかと思います。つまりですね農業や林業で生計を立てている人が、その地にいなくなっても、そういう権利というのはずっと残っているというところがございます。新しく住もうと決めてその地に入っても、なかなかこう思うような畑仕事も田んぼ仕事もなかなか出来ないというようなことも事実あるんじゃないかなというふうに推測するんですけども、行政としてですね、このような政策や規制を見直すような努力というの、私は必要なことなんじゃないかなというふうに思います。町でどうのこうのできる問題ではないかもしれませんが、やはりそういう事も少し頭の中に置きながら考えていったほうがいいんじゃないかなというふうな気もしますが、どうでしょうか。
議 長	瀬上総務財政課長。
番外瀬上総務財政課長	はい、政策構築の中では、そういったところも配慮したいと考えております。
議 長	本山議員。
4 番 本山議員	はい、よろしくお願いをしたいと思います。最後になりますけども、この地域、このような地域はですね、絶対に置き去りにしてはいけません。今多様性とか言われておりますけども、多様性を生かした地域社会にするためには

4 番 本山議員	ですね、まず地域の今の現状をしっかりと認識してですね、川本町全体で知恵を出して、現場でのしっかりした取り組みが出来ますように尽力をしていただきたいと思いますところでございます。今やっております立地適正化計画も、病院の新築移転も治水対策もですね、全て住民主体でございます。地域の草刈りのような共同作業によって支える地域の保全、景観維持、これはですね集落を守って、地域コミュニティを守って、居場所を守り、自分の存在を受入れてくれる場所としてですね、安心感を持つことができる。本当に住民主体の根幹であるというふうに思います。そして、持続可能なまちづくりであるというふうに思うわけでございます。最後にですね、町長、今日私が本日質問いたしました課題、これらのことを総括して何かご感想をお聞きしたいと思うんですけども。
議 長	野坂町長。
番外 野坂町長	私、かねがね職員に向けてですね、取り巻く環境変化をしっかりと見届けようと。それと町民の皆様ニーズをしっかりと把握した上で施策を組み立てるよというのを朝礼含め、あるいは庁議を含めてよく発します。それでもって、一番このことをですね反映する仕組みっていうのが予算編成過程であります。もちろん事務事業評価ありますけども、最終的に予算編成で、このタイミングでこの施策をやるべきということをマトリックスを全てですね、組み合わせていったものが、特に当初予算編成であります。その当初予算編成のときに私たち行政に携わる者が隘路に入りがちなのは、例えば法律で、いつも言いますけど法律で義務づけられていること。或いはその国県からですね、持ってこれれば持ってきたい。もしくはその大きな見直しをしたときに、この取り組みに充てたいのでこちらはもう既にとどめたい、そういった視点で組立てていくわけですが、今回議員ご指摘の、この点のところはですね、我々行政に身を置く者がですね、ひょっとするとですね担っていただいている方に頼り過ぎて、そういう議論を置き去りにしている、そういう可能性のあるところだと思います。ただ担っていただいている方は、おっしゃるようにコミュニティを大事にされたり絆を大事にされたりですね、そこで将来住み続けたいと思っている方により頼り過ぎて。頼り過ぎてるのは例えばですね今ですね、草刈りとかその予算編成、私も今日の御質問を受けてまた遡ってみたいと思いますけども、ひょっとすれば例えば、今もう人口3000人切ろうとしてますけど、例えば人口6000人規模のですね、負担割合のことがちょっと残ってるかもしれない。私どもの、いつかこの事業の見直しっていうのはちょっと関連して申し上げておきますと合併ですね、平成の合併の頃にかなりぐっと、合併直後厳しい見直し、いろんなものを見直ししています。ひょっとするとですね、その時に、この姿が妥当だろうみたいなのがひょっとしたらこの、このことにも限らず残ってる可能性があります。まさに議員仰いましたことはですね、そこの本当にそこに住んでいただいて

番外
野坂町長

る皆さんがですね、今風の言葉で言えば、公助、共助、自助で、ひょっとしたらですね、共助、自助に頼り過ぎてるかもしれない。難しくなったから今ちょっと公助にも入ってきて、そうすると今また費用負担も増えてるとかでですね、そういうところの根源的なご指摘であろうと思います。私たちですね、行政というのは、わりと様々な町民の皆さんからのニーズでコミュニティ、あるいは絆ですね、そういったところはですね、なかなかその予算とかそういうものでははかり切れない、でもとても大切なものであると。そこに皆さんがすごくしわ寄せがいつている、そういう警鐘を鳴らしていただいたご質問だと思います。しっかりとですね今のですね、例えば仮に6000人規模の、いわゆるマトリックスが残ってるかもしれないと言いましたけど、改めて検証してみてですね、今の人口3000人規模のところでは我々が担うべきとこだろうか、お願いしたいところとこだろうか、ですね。さらに、以後最近になって出てきたものは、先ほど仰いました先ほどの議論でも言いましたが、「たすけあい川本さん」という中間支援組織がうちの中でもいろいろ出てきていただいています。それからですね、ボランティア制度も有償ボランティア制度というのが全国も出てきています。そしてご指摘いただきました先進事例ですね、そこがやっぱり地域の実情に照らして、そういう仕組みをとっていらっしゃる。そういう意味では今日ご質問いただいたことをしっかり受け止めてですね、この私たちにとってですね、その地域の皆さんがコミュニティを大切にしながら、アイデンティティーを確立されながら、より絆をですね高めて暮らしていただけるような、私たちの最後の仕上げを予算が上がった時の、これでございますというのをですね、より常に予算編成の過程で意識しながら、ここは町の予算であります、外側この部分をお願いします。国や県はここから持ってきました。そんなことも含めてですね、その時点々の望ましいお互いの何といいますか役割をですね、見直すことのご指摘をいただいたと思っておりますので、しっかりその視点で私たちのですね、町民の皆さんと一緒にまちをつくっていくという視点からの取り組みを検討してまいりたいと、このように考えております。

議 長

本山議員。

4 番
本山議員

はい。ありがとうございます。ちょっと前向きなご意見をお聞きしまして大変うれしく思ったところでございます。今、町では治水とかですね、加藤病院の新築とかですね、そういう新しいことに目が行きがちでございすけれども、陰に隠れた農村地域の、そして限界集落と言われるようなところの人たちも、本当に川本町全体がですね、幸せになれるようなそういう施策をですね、打っていただきたいというふうをお願いをして、質問を終わります。

議 長

以上で、「高齢化と人口減少による労働力不足から考えられる生活環境への影響について問う」、の質問を終了します。

議 長

これをもって、本山議員の一般質問を終了します。

々

ここで暫時休憩します。(午後) 3 時ちょうどから再開いたします。

(午後 2 時 5 1 分)